

オハイオ州立大学における一般体育の現状と学生競技者に対する 大学体育局の学業支援について

松元 剛

Physical education classes for general students and academic services for student-athlete at The Ohio State University

Tsuyoshi MATSUMOTO

平成 21 年度筑波大学国際連携プロジェクト（短期派遣）「オハイオ州立大学との体育・スポーツ分野に関わる教育・研究協力を推進するための実地調査」を実施した。プロジェクトの概要は下記に示すとおりである。

【目的】

オハイオ州立大学の体育・スポーツ分野における教育・研究組織である The School of Physical Activity & Educational Services、Department of Athletics および Department of Recreational Sports の 3 組織をそれぞれ訪問し、その教育体制や研究組織の実情と課題を調査し、今後、筑波大学の体育系諸分野との教育・研究協力にかかわる協力・連携を推進するうえでの、基礎的な資料を得ることを目的とした。

【派遣国及び派遣機関】

アメリカ合衆国 オハイオ州立大学

【派遣期間】

平成 21 年 9 月 10 日（木）～

平成 21 年 9 月 14 日（月） 5 日間

【日程】

9 月 10 日（木） 移動（成田発 10:45 →
コロンバス着 13:18（10
日現地時間）
14:00～17:00

調査・研修

9 月 11 日（金） 9:00～17:00

調査・研修

9 月 12 日（土） AM 自由行動

14:00～17:00 調査・
研修

9 月 13 日（日） 移動（コロンバス発 8:45
→成田着 13:45（14 日））

今回は、体育センター業務と関連が深いと思われる オハイオ州立大学における一般体育、および Department of Athletics（大学体育局）における Student Athlete（学生競技者）への学業支援の現状の 2 点について報告を行う。

1. オハイオ州立大学における一般体育の現状について

Chuck Shiebler 氏、Jae Westfall 氏（Co-Manager of the Sport, Fitness, and Health Program）から一般体育の現状についてヒアリングを行った。

1) 大学内の位置づけ

一般体育を担う組織は、Sport, Fitness, and Health Program(SFHP)であり、全学における位置づけを図 1 に示す。SFHP

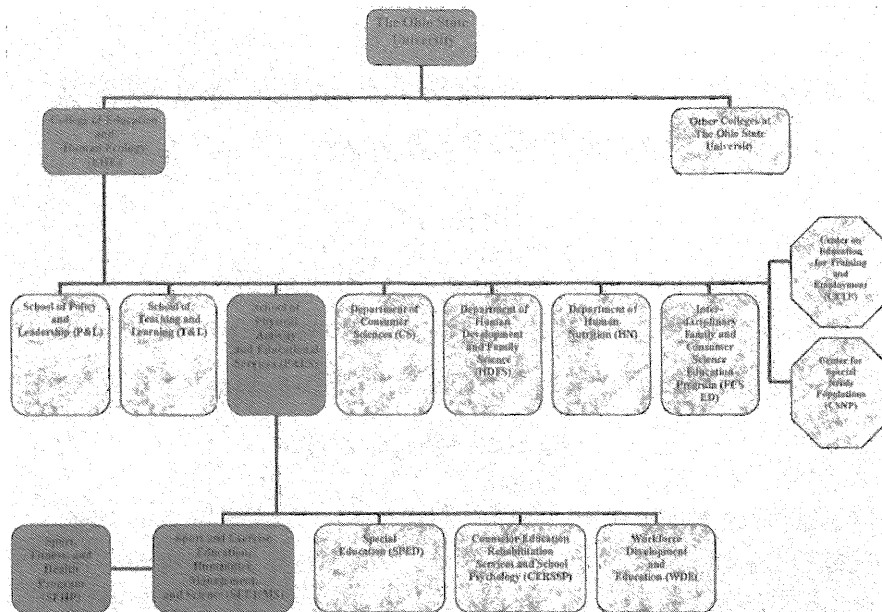


図1. Sport, Fitness, and Health Program(SFHP)の大学における位置づけ

は、School of Physical Activity and Educational Service (PAES) における Sport and Exercise Education, Humanities, Management, and Science (SEEHMS) 部局において、実技科目を中心とした教育プログラムを行っている。

2) 一般体育の現状

授業は全て選択科目として実施されており、約60種目、225クラスを開講している。結果として、毎年13,000人以上の学生達が受講していることになる。

SFHPのビジョンおよびミッションは、オハイオ州立大学の学生達がより高いQOLを目指して、活動的で健康的なコミュニティ形成を築くことであり、そのために質の高い大学教育プログラムを提供し続けることである。したがって、SFHPの社会的責任としての施策は、①スポーツや身体活動における生理学的・心理学的な効果、②身体活動、体力、健康、QOLの相互作用、③スポーツや運動、レジャー活動

における精神的効用、④健康なライフスタイルを維持していくために必要な知識、といった内容について学習するためのプログラムサービスを提供することである。このようなサービスを企画し、学生達に対して身体活動を行う機会を提供することによって、学生が自ら健康の維持増進に向けた積極的な活動を行うようになっていくことは、この組織の成果でもある。下記に8つの学習目標を示す。

- ①健康・体力の増進を図る
- ②身体活動の場を提供する
- ③健康の維持増進に向けた態度を獲得する
- ④身体運動の生理学および心理学的知識に基づく適切な身体活動ができるようになる
- ⑤スポーツや運動、レジャー活動における精神的効用について理解する
- ⑥身体運動、体力および健康との関係についての理解を深める。
- ⑦身体運動、体力および健康に関する知識を獲得し、それを生活の中で実施できる

能力を高める

- ⑧スポーツ、健康およびレジャー産業における分別のある消費者となる

3) 指導スタッフとしての Graduate Teaching Associate(GTA)

全ての授業における指導者は大学院生が担当し、彼らを Graduate Teaching Associate(GTA) と呼ぶ。したがって、SFHP の教員である Chuck Shiebler 氏、Jae Westfall 氏はスーパーバイザーとして管理監督業務を行う。

なお、GTA には授業の始まる前に Instructor Handbook (図2) が配布され、GTA としての資質が求められる。以下、Instructor Handbook の主だった部分について抜粋する。

『GTA の目的は』

- ・健康な生活を目的とした身体活動に主眼を置く
- ・学生に身体活動を通して教育するが、ただ単に運動をさせることではない
- ・健康とQOLとに関わる内容について理解をさせる

『シラバスについて』

シラバスは、学生・指導者および大学間における契約のようなものである。シラバスでは、授業内容やその評価法について記されているべきであり、各授業においては、授業のねらい、内容、目標、評価法が盛り込まれていなければならない。以下は、標準化されたシラバスの主な項目である。

- ①授業の目的
- ②他の授業との関係：この授業を受ける条件として、他の授業の単位取得が必要な場合は記入する
- ③授業の目標：学生が身につける内容を主眼とする
- ④実施場所、施設利用方法
- ⑤サイトの活用例

- ⑥各授業時間における授業内容

- ⑦評価の基準：技能35%、知識30%、出席35%

- ⑧評価値：93%-100%=A、90%-92%=A-、87%-89%=B+、84%-86%=B、80%-83%=B-、77%-79%=C+、74%-76%=C、70%-73%=C-、67%-69%=D+、60%-66%=D、59%以下=E

- ⑨出席に関するルール：SFHPでは10%ルールを適用する。

- ⑩遅刻に関するルール：2回の遅刻は1回の欠席に該当する。遅刻は授業が始まって5分以上経過した後に参加したと定義する。

- ⑪欠席に関するルール

- ⑫参考図書

- ⑬リスク管理について

- ⑭ドレスコードについて

- ⑮用具について

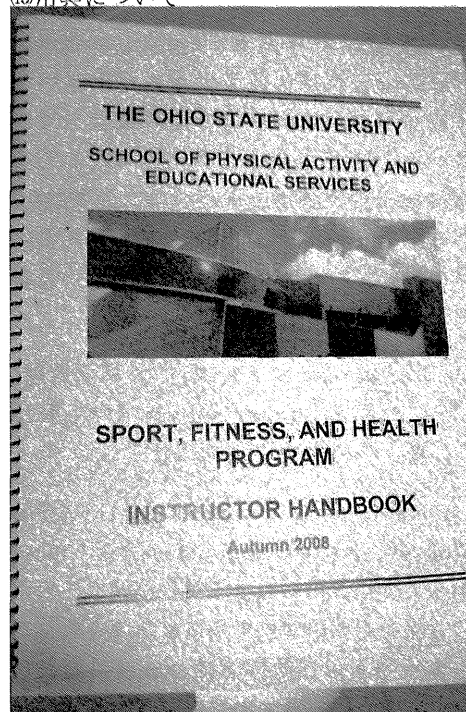


図2. Sport, Fitness, and Health Program(SFHP)の指導者用ハンドブック

4) ユニークな授業の取り組み

- ①Web-based Class：『フィットネス』の授業において、サイトを利用して授業を展開する。学生は、自己の目的に応じてトレーニングプランを考え、それに基づいてトレーニングを実施し、その報告をサイトにて行う。指導者はサイトからそれぞれの受講者のトレーニング状況を把握し、指導にあたる。
- ②Outdoor Pursuit Class：野外活動に関する学外の集中授業を他大学と連携して行う。

5) まとめ

オハイオ州立大学における一般体育は、選択科目として実施されていたが、多くの学生が受講している現状にあった。特に日本との大きな違いは、指導者の点において大学院生を活用していたことである。筑波大学においても Teaching Assistant (TA) の活用はあるものの、授業すべてを任せるといった制度までには至っていない。GTA における事前の教育としての Instructor Handbook の活用は重要であり、シラバスのあり方や評価基準の考え方など、今後のわが国における一般体育にとって参考になるものであった。

2. Department of Athletics (大学体育局) における Student Athlete (学生競技者) への学業支援の現状について

David Graham 氏 (Director of OSU, The Student-Athlete Support Services Office) から大学体育局における学生競技者への学業支援の現状についてヒアリングを行った。

オハイオ州立大学では、36 種目の競技スポーツ・約 980 人の学生競技者を有している。大学体育局における年間の予算規模は、約 100 億円を超えており、全米で最も成功している大学として、米国経済紙

の THE WALL STREET JOURNAL に "Inside College Sports' Biggest Money Machine" (Oct.19,2007) が記事掲載されている。

その大学体育局の中に、The Student-Athlete Support Services Office (SASSO) が存在している。SASSO のミッションは、すべての学生競技者に質の高い教育サービスを提供することであり、その主な目標として次のようなことが挙げられる。

- ・高いレベルの規範やサービスの刷新を維持する。
- ・すべての学生競技者がバランスのとれたライフスタイルを確立できるように支援する。
- ・すべての学生競技者を大学体育局、大学コミュニティ内に知らせ、紹介する。
- ・National Collegiate Athletic Association (全米大学体育協会；NCAA)、カンファレンス、大学のアカデミック・ルールを遵守する。
- ・すべての学生競技者の多様性と男女平等の尊重を促進する。
- ・すべての学生競技者に学問領域との機会を提供し、支援する。
- ・すべての学生競技者に対して卒業できるように支援する環境を提供する。

学生競技者にとって、全米大学体育協会のアカデミック・ルールの遵守は特に重要であり、全ての学生競技者に配布されるガイドブック (図3) の中においても下記のように記載されている。なお、オハイオ州立大学における学業成績はつぎのようになっている。A=4.0、A - = 3.7、B + =3.3、B=3.0、B - =2.7、C + =2.3、C=2.0、C - =1.7、D + =1.3、D=1.0、E=0.0 (1.65 PRACTICE RULE)

1 年時の学生競技者は、各学期末の学業成績平均値を 1.65 以上取得できなければ、

練習に参加してはならない。

(1.80 ELIGIBILITY RULE)

1年次の学生競技者は、2学期の競技会に参加するためには学業成績平均値を最低1.8習得しなければならない。また、1年次、2年次と参加し続けるためには1.8を維持しなければならない。

(2.00 ELIGIBILITY RULE)

3年次の学生競技者は、3年次の初めに学業成績平均値を2.00以上取得しなければ3年次以降の競技会には参加できない。また、3年次の間は2.00を維持しなければならない。

(0.0 RULE)

全ての学生競技者は、期末の評価を通して、十分な成績を維持しなければならない。仮に学業成績の平均値が0.00すなわち成績が「E」の学生は、次の学期中における全ての競技会への参加資格を即座に失う。

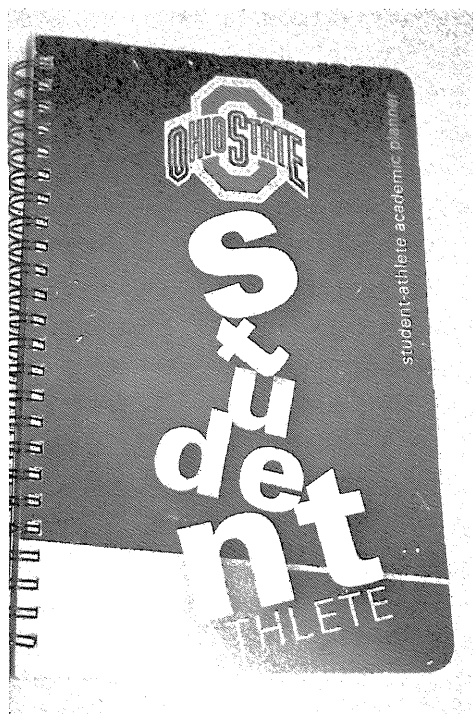


図3. The Student-Athlete Support Services Office のガイドブック

上記のような厳しいアカデミック・ルールの適用があるため、SASSOとしては、下記のような注意を促しながら学生達への授業への出席を喚起している。なお、授業時の学生達の様子については、SASSOが各教員の評価をモニタリングシステムにより管理している。

- ・一時間日に出席すること
- ・コースのシラバスを注意深く読むこと
- ・第一週目に指導教員と話をすること
- ・すべての授業に参加すること。競技会等で授業を欠席する場合は欠席する前に、教員に連絡することとし、欠席した際の授業内容や、課題については、あなた自身の責任であるということを忘れてはならない。
- ・学習時間をうまく確保すること。
- ・チューターを使うこと。
- ・授業中に積極的に質問をすること。
- ・学期中に指導教員とよくコミュニケーションをとること。

その他、SASSOの取り組みとして、自習時間の設置、チューターの利用、図書の貸し出し等を通して、大学生としての学生競技者に対する学業支援事業を実施している。なお、前述のガイドブックには、学業成績、奨学金制度、アルバイト、リクルーティング、キャリア支援、メディア対応など、多岐にわたって細かなアドバイスがなされている。

まとめ

日本の大学スポーツにとって、学生競技者の問題についてこれまで論じてきたことはほとんどない。大学が競技スポーツの普及振興に大きな影響を及ぼしていることは事実であり、大学が一方向的に学生競技者を利用している感は否めない。アカデミッ

ク・ルールの制定まではいかないまでも、
まずは大学として学生競技者に関わる教育
および競技に関するソフト面での保障を充

実していくという認識が、重要ではないか
と考える。